

『性』のありかたは十人十色

私という人間、見た目はショートカットで ざっくばらん な性格！
幼い時から『女らしい』『おしとやかな子』などと言われたことがない。

亡き両親からも『男はこうあるべき』『女はこうあるべき』というような固定したイメージを持つような育てられ方をしてこなかったこともあり、ジェンダーによる固定観念などない人間だと自負していた。

なのに、誰からも教わった訳でもないのに恋愛対象は『異性が当たり前』と思い込んでいた節が自分にはある。

人それぞれ性格や顔が違うように、性のありかたも『男性』『女性』の二つに分けられるほど単純ではないはずだ。『からだの性（戸籍に記載されている性別）』『こころの性（自分が認識している性別）』『性的指向（好きになる相手の性別）』などはすべての人に関わる性の要素だし、この組み合わせも多様で『〇〇種類ある』なんてハッキリ決めることなんてできないと頭では理解していたはずなのに。

一人ひとりに性のありかたがあり、性的少数者（LGBTQ など）だけでなくすべての人が多様性の当事者なのかもしれない。今はまだ性的マイノリティを身近な存在として感じている人はあまり多くはないかもしれない。けれど、目に見えるものではないし、『見えない』ものから『居ない』と思っているだけで、性的マイノリティは学校・職場・地域などどのような所にも存在していて、決してどこか遠くの世界の話というわけじゃないんだと・・・自己認識できた感がある。

本来、人はみんなそれぞれ違って当たり前！これまでの自分の思い込みや今までの価値観を捨て、多様性を認め合い、誰もが【自分らしく】いきいきとした生活を送ることができる社会になるよう願わずにはられない。

